

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	4
サポートクラス	バード	Lv.1:	バード	性別	無性
称号クラス				年齢	10
種族	ベスティア：リキッド			境遇	記憶喪失
出自 (効果)	事故			目標	友情

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	12	8	7	15	12	13	9
ボーナス	4	2	2	5	4	4	3
クラス修正	0	0	0	1	2	2	1
他修正							
能力値	4	2	2	6	6	6	4

HP	48
MP	60
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	素手 (ベスティア：リキッド)	至近	0	4	0	0	0	0	0
左手									
頭部	メイジハット					2			
胸部	メイジローブ					3			
補助	水晶の指輪					1	1		-1
装身具	グリモア								
能力値			2	0	2	0	6	8	9
スキル									
その他									
総計(右)			2	4					
総計(左)					2	6	7	8	8
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	2			2	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	6			6	+ 2 d
アイテム鑑定	6			6	+ 2 d
魔術判定	6			6	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

現在重量：	7	所持金：	10395	預金・借金：	
最大重量：	24				

所持品	
冒険者セット	
ベルトポーチ	キャップライト
異次元バッグ	
ポーションホルダー	
→ハイHPポーション*2	
→ハイMPポーション*3	
小道具入れ	
→虹の輝き：水	
→転送石 (ライン) *2	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ベスティア：リキッド	★		パッシブ/メイン		自身			
効果：素手の「攻撃力」を「攻撃力+CL」に変更する。さらに、あなたが行う離脱では、封鎖の影響を受けない。								
マジシャンズマイト	3	-	パッシブ	-	自身	自動成功		
効果：魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
コンセントレイション	★		パッシブ		自身			
効果：魔術判定に+1dする。								
ウォータースピア	★	6	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果：対象に魔法攻撃を行う。その魔法攻撃は「2d+5」「水」属性の魔法ダメージとなる。また、その攻撃で1点でもダメージを与えた場合、「放心」を与える。								
ウォーターマスター	3		パッシブ		自身			
効果：「水」属性の魔法ダメージを与える魔法攻撃に有効。魔法攻撃のダメージに+「SL*4」する。								
	1							
効果：								
アンブロンプチュ	★	7	判定の直前		自身	自動成功	シーン1回	
効果：判定の直前に使用する。その判定を呪歌判定で代用判定する。								
シルバリィソング	★		パッシブ		自身			
効果：呪歌判定に+1dする。								
アレグロ	2		パッシブ		自身			
効果：呪歌判定の達成値に+「SL*2」する。								
	1							
効果：								
水の氾濫	★	4	ムーブ		自身	自動成功	シーン1回	
効果：「対象：単体」の「分類：魔術「水」」のスキル、パワーに有効。対象を「対象：範囲(選択)」に変更する。この効果はメインプロセス終了まで持続する。								
水の恩寵	★		パッシブ		自身			
効果：「水」属性の魔法ダメージを与える攻撃に有効。攻撃のダメージに+1dする。								
サーチリスク	★		パッシブ		自身			
効果：危険感知の判定に+1dする。								
フェイス：マリッド	★		パッシブ		自身			
効果：「水」属性の魔法ダメージに有効。あなたが行なう攻撃のダメージに+2する。								
スペシャリスト I：水	★		戦闘前		自身	自動成功	メイジ	
効果：フェイトを1点消費。選択した属性を持つ「分類：魔術」の魔法攻撃のダメージに+1dする。この効果はシーン終了まで持続する。								

彼女(彼)の故郷は廃墟なゴーストタウンの怪しい研究所跡だった。  
 気付いたら、巨大な試験管にいたが、なんか外出れた。  
 ゴーストタウンを復興させている、猫族や狼族、昆虫族とも仲良くなった。  
 彼らは彼女(彼)を「マリン」と呼んだ。  
 不定形な彼女(彼)だったが、かつて存在したと言われている「人族」の記憶があったので、「人族」の姿を真似てみた。  
 彼女(彼)も復興を手伝っている内に、研究所跡で謎の装置を見つけた。  
 次に気づいた時は、彼女(彼)はエリンディルにいた。  
 異世界の住民な彼女(彼)でも、ちょっと変わった種族という扱いで、冒険者としては活動はできるみたいだ。

『ざざ…、あの子は…、もう…。…の代わりは…。ざざ…、…は、あの子では…いい。あの子…、まり…は…。』

時々夢に見る謎のビジョン。彼女(彼)を呼ぶ女性は、彼女(彼)の母親なのだろうか？

